

地域をつなげるコミュニケーション「傾聴講座」

社会福祉法人 府中町社会福祉協議会
〒735-0023 広島県安芸郡府中町浜田本町 5-25

助成事業の概要

傾聴ボランティアをはじめ、対話を必要とするボランティアの方々の気持ち良い活動を応援するため、ボランティアの技術向上を目的に講座を企画しました。

「地域をつなげるコミュニケーション傾聴講座」は平成23年11月29日（火）に開催。募集定員は70名。講師は、NPO法人ホールファミリーケア協会へお願いし、理事長 鈴木絹英さんに決まりました。

午前「講義 よい聴き手になるために～傾聴の意味と意義～」、午後「傾聴的基本的な聴き方の練習～傾聴モードで聴く、共感的理解で聴く、受容的態度で聴く～」と題して、傾聴の基礎から練習までを4時間にわたり講義していただくように依頼。また、地域でのコミュニケーションづくりにもつながるように、募集対象を「聴く力を磨きたい方」とし、広く一般に周知しました。申込み・問合せは、活躍中のボランティアを中心に「傾聴」初心者の方も多く、民生委員やヘルパーの参加もありました。受講希望者は「聴く」ことについての課題意識を持って講座に参加されました。

事業の成果

会場の都合により70名募集し、ほぼ一杯の申し込みがありました。参加者の内訳は、半数がボランティア・3割が民生委員・相談員・福祉関係職員で、一般の方は、全体の約2割でした。

講師の講義内容は大変わかりやすく、「人の話

を聴く」ということのむずかしさ・大切さ・聴く側の心構えや姿勢について、丁寧にお話をいただきました。「聴き方」一つで相手への印象もかわり、人間関係が円滑にいくことを実感し、改めて普段の生活の中に「聴く」ことを取り入れる必要を感じました。そして「わかる」や「がんばれ」という安易な言葉ではなく、優しさ、温かさを伝えるコミュニケーションについても学び、「傾聴」は難しいことではなく、日々の生活に取り入れることができ、自分を高める大きな財産となることがわかりました。

講師より、「一番難しい家族から実践を」との話があると、「今までの関係を反省して、是非取り組んでみたい」や「今まで聴いているようで、全く聴いていなかったことがわかった」などの感想がつぶやかれました。

受講修了者からは、「一人一人を大切に思う気持ちを大事にしていきたい」「聴いてもらうことの心地よさを体験できた」「傾聴の技術を生活（家族）に役立てたい」「仕事に！活動にこの技術を生かしたい」という感想を多くいただき、さらに、「認知症の方への対応についての講義を受けたい」と、自己研鑽への意欲も寄せられました。講義の内容についてもおおむね理解していただけただようので、スキルアップの効果も得られました。また、ボランティアをしてみたいと考えられた方や、「傾聴」グループへの参加希望者もあり、「傾聴」を知る機会としては、十分な成果があったように思います。

■ 今後の展開

各個人の傾聴技術レベルアップには十分つながったと思われませんが、1日の講義では、理解・技術の定着が難しいと思われます。継続してフォローアップの講座を企画したいと感じています。人と人との「絆」が見直されている今、「傾聴」の活動が一人でも多くの方に広まること、そして、各々のボランティア活動が、「傾聴」の気持ちで連携し、協同へと発展に結び付けるための働きかけ（後方支援）を、社協として応援していきたいと思ひます。